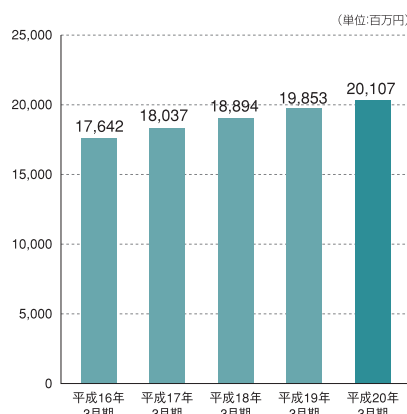


業績のハイライト（個別）

The highlight of achievements

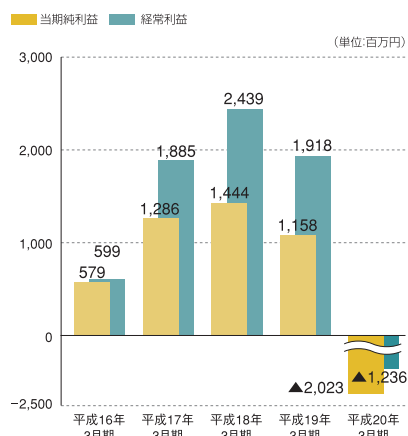
経常収益

経常収益は、有価証券利息配当金や貸出金利息が増加したことなどから、201億7百万円（前年同期比1.2%増）となりました。



経常利益・当期純利益

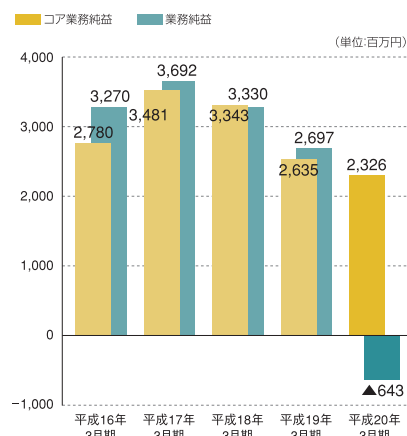
経常利益は、コア業務純益の減少と貸倒償却引当費用の増加のほか、有価証券の減損処理により、12億36百万円（前年同期比164.4%減）の損失となりました。また、当期純利益も20億23百万円（前年同期比274.6%減）の損失となりました。



コア業務純益・業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、預金利息の増加により資金利益が減少したことなどから、23億26百万円（前年同期比11.6%減）となりました。

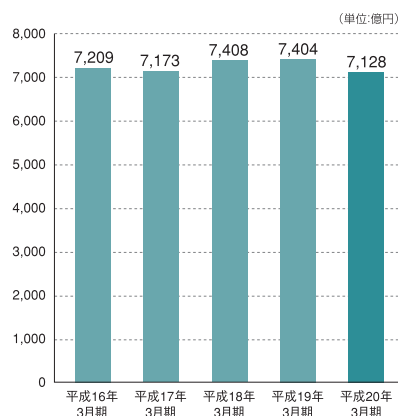
業務純益は、有価証券の減損処理により、6億43百万円（前年同期比123.8%減）の損失となりました。



※コア業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額及び債券売買等の損益を控除した金額をいいます。

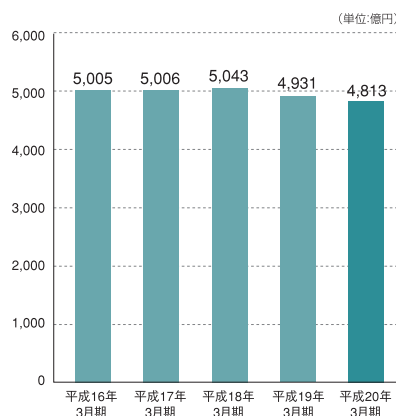
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金が増加したことから、景況回復の遅れなどを背景に法人預金や公金預金が増加したことなどから、7,128億円（前年同月比3.7%減）となりました。



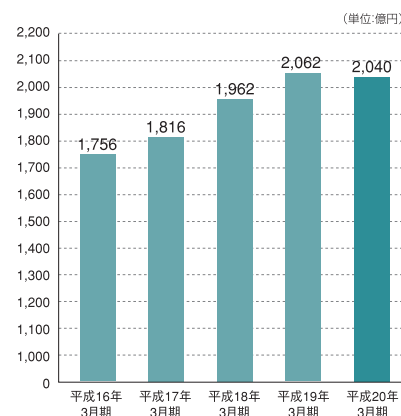
貸出金残高

貸出金残高は、地方公共団体向け貸出は堅調に推移したものの、中小企業向け貸出や住宅ローン残高が減少したことなどから、4,813億84百万円（前年同月比2.3%減）となりました。



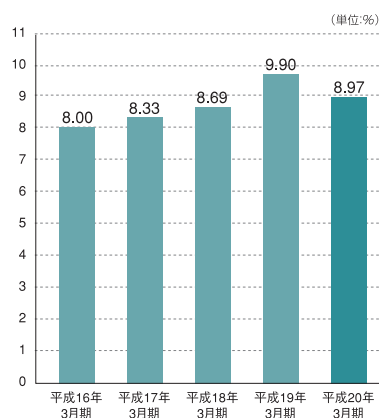
有価証券残高

有価証券残高は、国債等は増加しましたが、社債や株式等が減少したことなどから、2,040億13百万円（前年同月比1.0%減）となりました。



単体自己資本比率（国内基準）

単体自己資本比率（国内基準）は、前年同期比0.93ポイント低下し、8.97%となりました。



格付

当行は、第三者による評価をととして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示するため、平成19年10月に株式会社日本格付研究所（JCR）より格付を取得いたしました。

格付機関

株式会社日本格付研究所（JCR）

格付種類

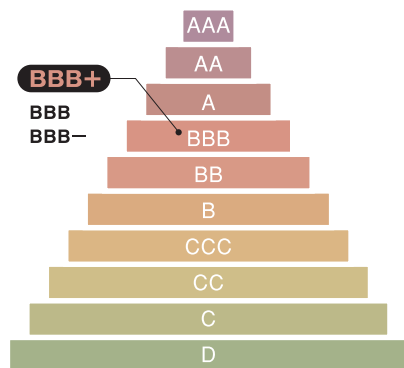
長期優先債務格付

格付

BBB+（トリプルBプラス）

見通し

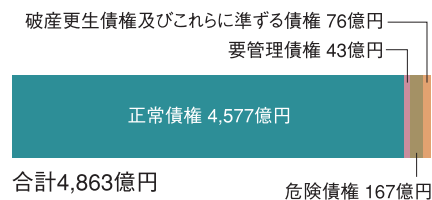
安定的



金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権（貸出金・支払承諾見返等）のうち、正常債権以外の債権額は、286億37百万円（前年同月比10億92百万円増）となりました。

金融再生法に基づく開示債権額（平成20年3月末現在）



金融再生法開示債権の保全内訳

（平成20年3月末現在、単位：百万円）

	債権額（A）	保全額（B）	担保・保証等	貸倒引当金	保全率（B/A）
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,606	7,606	5,764	1,842	100.00%
危険債権	16,713	15,495	13,709	1,785	92.71%
要管理債権	4,317	2,340	1,412	928	54.21%
正常債権	457,758	263,874	262,914	960	57.64%
合計	486,396	289,317	283,801	5,515	59.48%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

